2024 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書（HP 掲載用）

1. 助成対象事業	女性学・ジェンダー研究の発展に資する調査、研究、出版
2. 事業の区分	Seeds プロジェクト　研究
3. 氏名/団体名	平野　志乃
4. 事業名	児童虐待対応における養護教諭に対する役割認識について―ケアを担う養護教諭とジェンダー差別に注目して―
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2024 年 9 月 1 日～2025 年 11 月 30 日
7. リンク	なし

8. 事業の目的

本事業の目的は、男女の養護教諭へのインタビュー調査から、児童虐待対応について、養護教諭の役割認識と他教員からの役割期待の齟齬が起こる要因についてケアとジェンダーの視点から明らかにすることである。これまでの虐待対応で養護教諭と他教員との連携でしばしば困難さがあり、そこには養護教諭への役割期待の齟齬があった。養護教諭は女性が多いゆえにケア役割は期待されるが生徒指導等の役割は期待されないことがあり、学校内の中心的役割から周辺に追いやられている現実があった。これらの要因についてケアとジェンダーの視点を取り入れて検討する。

養護教諭が学校内で周辺化されている要因を明らかにすることで、養護教諭への認識を変容させる支援策を打ち出せ、養護教諭への認識を変容させることができ、他教員との連携がスムーズになり、被虐待児への対応が迅速に行えるようになると考える。

9. 実施内容

１．1990～現在に至る養護教諭の虐待対応に関する先行研究の整理を行う。

２．養護教諭と周囲の教員に半構造化インタビューを行う。児童虐待対応における役割で養護教諭の役割について、養護教諭自身の認識と周囲の教員の認識を聞く。

３．結果を分析し、ジェンダーに関する発言及びケアに関する発言に注目して分析を行う。

10. 事業の成果と自己評価

事業の成果①

第 77 回日本教育社会学会大会（11 月 8. 9 日）のジェンダー部会で発表いたしました。

【発表題目】「児童虐待対応における養護教諭に対する役割認識について―ケアを担う養護教諭とジェンダーに注目して―」

事業の成果②

『教育社会学研究』（日本教育社会学会論文集）に論文投稿（11 月 10 日）いたしました。

【題目】「養護教諭の役割認識と他教員からの役割期待の齟齬について、ケアとジェンダーの視点からの検討―児童虐待対応についてのインタビュー調査から―」

本事業の目的に則して、男女の養護教諭へのインタビュー調査から、児童虐待対応について、養護教諭の役割認識と他教員からの役割期待の齟齬が起こる要因についてケアとジェンダーの視点から明らかにした。養護教諭は学校で「母親のようなお世話」をする先生として他教員から認識されており、病気、けがといった対応以外でも、絵具で汚れた服の洗濯や、雨でぬれた服を乾かしてほしいなどの仕事を頼まれている実情がわかった。しかし、養護教諭には生徒指導提要に示された生徒指導的な役割がある。にもかかわらず、他教員は生徒指導の役割を期待していなかった。養護教諭自身はケア役割の他にも生徒指導の役割も担っていると認識しているのだが、他教員からは期待されておらず、生徒指導的役割から外される体験をしていた。そのような実状から養護教諭は学校内で周辺化されていると感じていた。この周辺化される要因について、養護教諭の職務内容と女性割合が多さから、ケアとジェンダーの視点を取り入れて検討した。

その結果、女性が主に担ってきたケア労働を養護教諭が行っているため、ジェンダーの女性性の役割を担う教員と他教員からは認識されており、教科を教える教員より下に見ている可能性があることがわかった。「養護教諭にやらせておけって感覚なのか」と男性養護教諭は語っていた。このように養護教諭が周辺化されることは養護教諭が児童虐待に対応していた時に、養護教諭の言葉が軽視され被虐待児の対応がスムーズにいかないことにつながりかねない。

今回の調査から養護教諭の周辺化がケアやジェンダーに影響されて起こってきたことが明らかになった。このことは、養護教諭の職務についてしっかりと伝え、他教員の認識を変容させる必要があることを示せた。養護教諭への他教員の認識を変えることで、学校内での連携がスムーズになり、被虐待児への対応が迅速に行えるようになると考える。

日本教育社会学会の発表で現職の養護教諭からは共感の意見を頂けた。また研究者の方から養護教諭の周辺化について、男性養護教諭の語りがあることで、女性が多数を占める職に起こる女性性のジェンダーの役割認識が男性養護教諭にも当てはめられてることに注目した質問があった。今後は本研究により、学校でのジェンダー平等が確保され、今後の子どもたちへのジェンダー教育も自然なものとなる一助となると考える。養護教諭のように女性が多く、ケア労働とみなされる仕事内容が多い教員が周囲の教員と平等に連携し活躍することで女性やケア労働の地位向上を図ることもできると考える。

11. 成果物

成果物①

第 77 回日本教育社会学会大会（11 月 8. 9 日）のジェンダー部会で発表いたしました。

【発表題目】

「児童虐待対応における養護教諭に対する役割認識について―ケアを担う養護教諭とジェンダーに注目して―」

成果物②

『教育社会学研究』（日本教育社会学会論文集）に論文投稿（11 月 10 日）いたしました。

【題目】

「養護教諭の役割認識と他教員からの役割期待の齟齬について、ケアとジェンダーの視点からの検討―児童虐待対応についてのインタビュー調査から―」